

本朝水滸傳

水滸



1610
1



1610
1

吸 露 宿 猿 足 大 人 著

本 朝 水 滸 傳

京 師 書 林 發 行

本朝水滸傳序

此書の序は... 八十八... 乃の事... 此の事... 乃の事... 此の事...

万 弥

子 冬 丑 冬

六 冊 入 許 序



今。あといは、文をよめ。この本は
あやしい。又、あやしい。あやしい。あやしい。
あやしい。あやしい。あやしい。あやしい。
あやしい。あやしい。あやしい。あやしい。
あやしい。あやしい。あやしい。あやしい。
あやしい。あやしい。あやしい。あやしい。
あやしい。あやしい。あやしい。あやしい。
あやしい。あやしい。あやしい。あやしい。

あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。
あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。
あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。
あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。
あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。
あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。
あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。
あひひ。あひひ。あひひ。あひひ。

又是と水滸傳と異けしるべし。此はもた
しめしむるはよく事始むるはつとて。う
け川色は事小くせし書屋がわが事
局とのふり。

昭和十癸己睦月

大神太史藤原竹居加祿志苗須

本朝水滸傳

目錄

卷之一

第一條

味稻の箱仙女と終り百人乃子決ま
うく

第二條

太宰府の阿蘇丸勅使と弓削乃鏡
と石まのわら糸の御天女を後を電光石火

卷之二

第三條

後系念丸石村村を奉るよりて後系
念丸の御天女を討しむべし勅あり

第四條

道祖王御船にめされく遁せり
惠美押勝教い貞原

卷之三

第五條

を九角凡が體を燒く
英佐保乃大逆に首仰る

第六條

惠美押勝祖王を
隠る白猪老人祖王

卷之四

第七條

を成がびを
字を授く七人の御船

第八條

ハ東國より
和氣美人傳丸
大和文に指づ

卷之五

第九條

清丸神乃
に罷りたる巨勢
金丸

第十條

金丸
志のぶ

卷之六

第十一條

守邦が衆罪試ゆられし傳丸金丸が
縁を垂し傳丸が妻子金を捕せよとい
て紀伊ゆきゆく
山城傳丸乃妻子代置みを承け日番大志
刀を奪ひて妻を弄人へ伊吹山よりゆく

第十二條

卷之七

第十三條

兄身より偏しく傳丸乃妻子伊吹山よりゆく
人々く傳丸のとりわれとせよ

第十四條

休書に繼劍術を教ふ事宗良丸をたて
大ねと一徒とどくく白山のや

卷之八

第十五條

二人の大将軍軍を乞をわく白山のい
つにこそ承事傳丸は所無糧乃りて

第十六條

大伴が持事傳丸を奪ふ事承事が秘せる
と白山に鐘くしむ

卷之九

第十七條

守大伴若狭家持糧を白山よ解る者
此ノベのまだらマララチ
和赤部高志力高村の飯よ来る

第十八條

信丸を丸も高志高志の妻にわひく
このふねく伊勢山よのり

卷之十

第十九條

人置の志緒韓白の大神金沖にかけ
系弓屋の俊雄臣高志ひく

第二十條

弓屋の俊雄人置の志緒高志ひく
高志ひく高志ひく

卷之十一

第二十一條

高志ひく高志ひく高志ひく
高志ひく高志ひく高志ひく

第二十二條

高志ひく高志ひく高志ひく
高志ひく高志ひく高志ひく

卷之十二

第二十三條

高志ひく高志ひく高志ひく
高志ひく高志ひく高志ひく

第二十四條

高志ひく高志ひく高志ひく
高志ひく高志ひく高志ひく

たらし ぬき ち
ふかに けをふ

卷之十三

第九六條

國々の 弘孝良乃 於よの びる 及び 後を か
おわとも の なく ね せり ち
て 大伴宿禰 書持 白山よ びる ちん
とん

第九七條

光明皇后 浴室を ちく ちづる 種末乃
人 を けり けいふ ち 含 ちりて 皇后よ ち
かる

卷之十四

第九七條

皇后 けいふ 書持 とも ねき ちく ちん
けり たまふ 及び 書持 佐備の 席女よ けり
を 惜 ち

書持 白山よ びる ちん けり ちん

第九八條

書持 白山よ びる ちん けり ちん

卷之十八

第九九條

大伴宿禰 家持 世 けり ちん ちん けり
及び 書持 けいふ ね ちん ちん けり
けり ちん けり ちん けり ちん けり
けり ちん けり ちん けり ちん けり
けり ちん けり ちん けり ちん けり
奇丸よ ちん けり

第三十條

卷之十六

第九一條

三つ足のたるまふそとつこまふ
はる足丸印候よりくえうとせらる
英家侍少國の軍兵印ゆく印候よせらる
蝦夷の林深カムイボラデントビカラ使堂を
ゆく使使候りある

第九二條

卷之十七

第九三條

英家の押傍おちるて和せ英カミイボラ
デントビカラ義人をなせよ

第九四條

奇丸が文お候より英家持松島より
くす被内親王をおく急使

卷之十八

第九五條

足丸よりくすトビカラに内親王を符さ
あむ英トビカラ神孫の貴位をゆめく
こそくくあせよ

第九六條

槍燒王槍燒とらるく使香王の姫に
かゝらふ英守松島王使射殺候

卷之十九

第九七條

榜虎兄英守松島よつけどらる英非ゆい
て死ゆよよりく使香王をみせ

第九八條

大田水舟傳 卷之十一

卷之二十

第九條

石波内親王 嵯峨王の養をいん死く
夕まよりそ人くかたしころあまのみ姫の墓
なるぶくはる

第十條

宇佐八幡のあま天物集家并
弟の采女侍
阿曾麻呂政務とみぶる并箱崎よは女と
まぐ

卷之二十一

第十一條

阿曾丸が家人奉金明徳并
殺さる

第十二條

若原清阿揚を死をわくむとの筑紫
にゆりむ

卷之二十二

第十三條

法何松浦の娘子に於原并
遊づく

第十四條

小治田連珠名清はよめぐり並ひく昔
阿曾丸を討むるは

卷之二十三

第十五條

金以根次郎く香推の宮より并
姑

第四十六條

の毒^{おと}は毒^{おと}もく^{おと}る^{おと}げく^{おと}と^{おと}ども^{おと}金^{おと}明^{おと}後^{おと}る
に^{おと}う^{おと}と^{おと}り^{おと}る^{おと}行^{おと}至^{おと}て^{おと}毒^{おと}の^{おと}後^{おと}死^{おと}ん
揚^{おと}を^{おと}死^{おと}目^{おと}中^{おと}言^{おと}決^{おと}死^{おと}小^{おと}并^{おと}珠^{おと}名^{おと}が^{おと}毒^{おと}と^{おと}も
に^{おと}何^{おと}る^{おと}丸^{おと}よ^{おと}つ^{おと}ふ

卷之二十四

第四十七條

何^{おと}そ^{おと}毒^{おと}丸^{おと}船^{おと}決^{おと}う^{おと}ふ^{おと}く^{おと}樂^{おと}む^{おと}み^{おと}あ^{おと}る^{おと}死^{おと}
魚^{おと}何^{おと}る^{おと}丸^{おと}を^{おと}う^{おと}死^{おと}ふ
海^{おと}人^{おと}の^{おと}男^{おと}使^{おと}機^{おと}法^{おと}何^{おと}よ^{おと}毒^{おと}小^{おと}并^{おと}男^{おと}使^{おと}珠^{おと}よ
り^{おと}何^{おと}る^{おと}丸^{おと}を^{おと}死^{おと}ふ

第四十八條

卷之二十五

第四十九條

何^{おと}そ^{おと}毒^{おと}丸^{おと}箱^{おと}決^{おと}の^{おと}後^{おと}よ^{おと}く^{おと}決^{おと}死^{おと}を^{おと}つ^{おと}ふ
并^{おと}在^{おと}女^{おと}お^{おと}使^{おと}優^{おと}死^{おと}ん
法^{おと}何^{おと}が^{おと}毒^{おと}珠^{おと}名^{おと}が^{おと}毒^{おと}と^{おと}り^{おと}よ^{おと}何^{おと}る^{おと}丸^{おと}よ^{おと}死^{おと}ふ
并^{おと}珠^{おと}名^{おと}揚^{おと}を^{おと}死^{おと}を^{おと}死^{おと}ふ^{おと}く^{おと}死^{おと}田^{おと}何^{おと}る

第五十條

六朝文苑集卷之八



六朝文苑集卷之八



といふ其ハ又いふもく此のくまふと聞ハ未通女言く。は百辰の枝ハ只今の間又世ふ死にうらう。百人乃ひとく生れおんといふ氣味もく。さるもくも我くがみまくとむらふといふあやや侍うるんと申せば未通女言くされハあど死かつ枝ハ主人と生れおそく細きハそのはくくの官人と生れお束の枝乃りそ死ハおね茶生と生れあく。ひ延にいゆき彼延よとまあり。世のありさ海の昔を言く。終ハ我くが住む心に来り集ん。その集る人ハ皆我子なりとおぼせ。是がころある一ありと告げり。その百辰乃枝を又川の言よ持あく。今も我く自とてひ何も言く。やらん。は枝あるあさうい

く世言はるる紀伊の由系にあらばははひ風よまうせとく。只一耐又國中此浦廻をめぐり。其中ハ八座園にいまく生れあもるべ。艇夷の言よ生れあもるもとむ。又ある死園ハ何をさかめなり。あく。今四年年が間ハ八音人悪人様と生れおんといひ終る。あのみ言よとりて彼方とあふに。白死言き返りく耳香の穢よたるび死なるを地沈踏るる踏るる死言山乃いありにあられう世よりとそ

第二條

太宰府の阿そ丸勅言けく弓削乃後を言
あさあ 言のつてんわうとまきやう
あさあ 言のつてんわうとまきやう

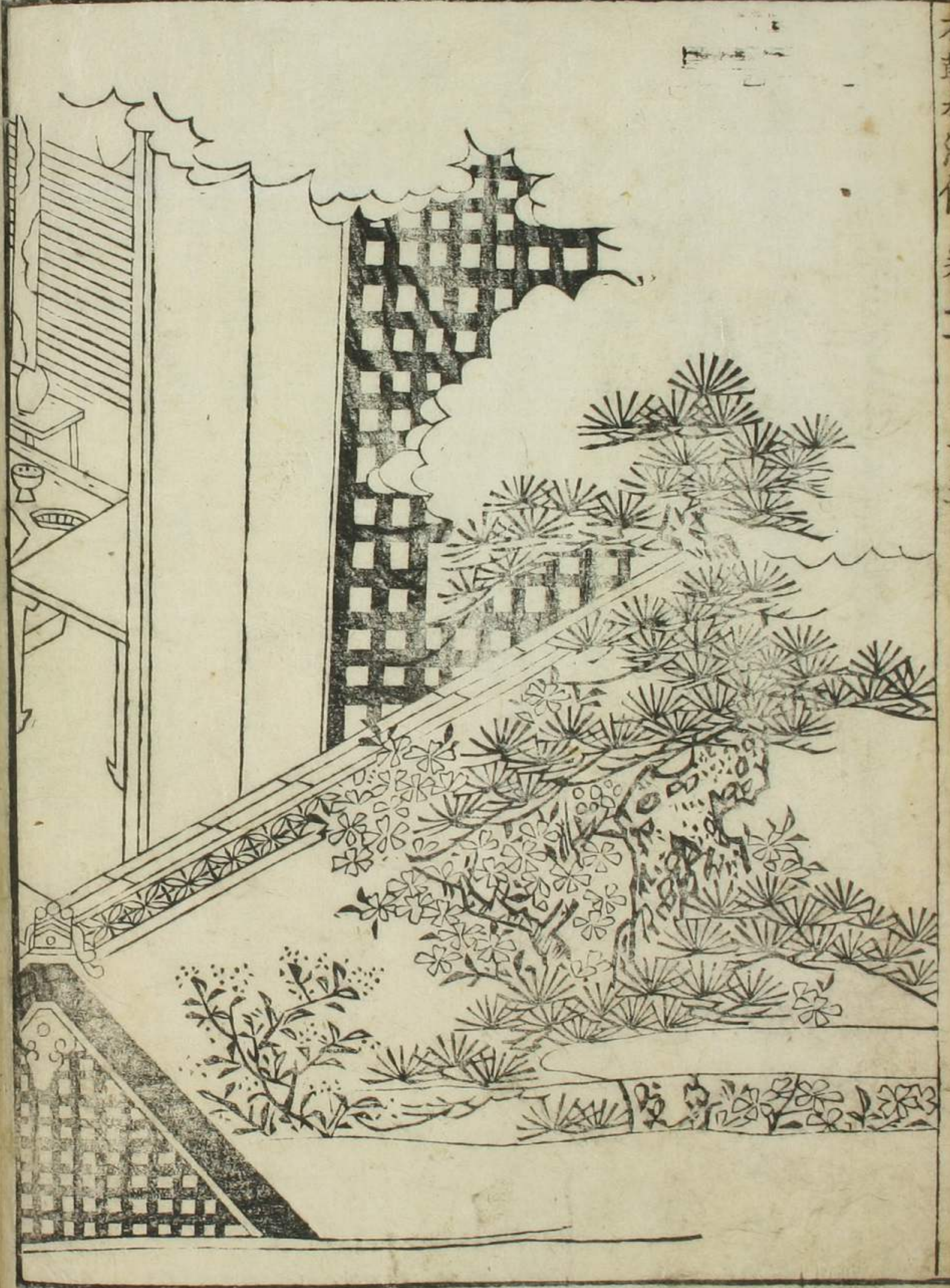
あまの言よとつてんわうとまきやう
あまの言よとつてんわうとまきやう
あまの言よとつてんわうとまきやう

のまよて中津治あらし。又津位を尊祖天皇文武にゆづりたまひ。
 又まよる國必天皇ハ元明皇勅津治あらし。津位と信
 足天皇を元正ぞうけつがせり。次は尊祖天皇ハ聖武津位と信
 祖親王にゆづりたまひ。是より天皇を尊祖とす。天皇御
 する津治也。まよるより。百官あひまびく侍りたるに太宰府
 の阿蘇丸のりりく。初まよのりりくをりりか。養うくやさく。伊予の
 國弓削の屋よ。弓削の屋と申。彼初書乃をりりく。八役小角がゆひ。津
 つさくさしふかのりり。初に其養ひとあはれ。是はゆめく。津
 初侍はまよるせり。らんハ。ならまち大津心。信く。く。りり。地も。何
 んと申え。つら。大津信信見うけひ。さ。ひ。其のゆめく。つら。つら。

うぶるもせり。ひて。別り。丸。子。紀。よ。あ。り。く。伊。豫。よ。り。り。その。乃。信
 をり。く。あ。れ。と。る。ん。信。見。の。さ。し。ひ。り。あ。あ。あ。何。を。あ。か。と。ま。り。を。中
 て。從。志。は。い。と。あ。り。し。只。津。志。乃。信。使。さ。り。ひ。ひ。津。界。と。あ。る。と。元。天。皇
 務。室。元。年。二。月。十。日。己。の。時。よ。志。良。の。勅。を。む。く。午。の。時。よ。大。坂。津
 越。今。の。童。田。赤。の。障。乃。浪。心。乃。浦。よ。若。く。里。八。里。と。申。と。此。と。此。を。三。國。を。さ
 ざり。た。れ。が。ち。を。丸。心。信。ひ。浪。心。の。浦。より。津。信。を。信。志。紀。の。小。さ。を
 迷。く。侍。り。し。捲。子。四。人。を。立。楨。元。二。人。を。立。從。志。ハ。浪。心。よ。と。あ。り。人
 を。例。よ。さ。び。り。せ。申。の。と。記。さ。る。を。り。に。漕。お。たり。風。あ。く。遠。い。し
 う。に。捲。子。ご。も。な。津。さ。ら。み。と。か。を。さ。さ。く。漕。撓。か。八。十。里。を。り
 の。浦。を。其。衆。の。間。に。遠。ひ。た。り。て。十。日。の。曉。弓。削。の。屋。よ。ま。あ。

此を丸形舟をく。蓬庫乃藝の首に落るを撥ちるを冠儀志方板
 を忌務を若菊を拵げ。古刀袂掛を記留を留りて。乃鏡が室に列る
 かとより。遊若杖つらうく。さたよあざり。おたふれば。乃鏡道よさ迎
 ひく。私取るに。つる丸中の重乃上堂に。ゆきまをさあつる。たうく
 へのりく。勅使若のゆり。乃鏡かこまりき。ささなり。終れば
 何る丸遊若をきく。退る色。は室よ侍る。ききも。ささの色の乃鏡
 と。新洲合を耳をとりか。て。互よひ。も。た。い。あ。中。の。り。い。う。る。う。ま。か
 侍りらん。さく。あ。げ。も。た。も。さ。い。丸。舟。使。に。あ。ら。び。と。そ。あ。が。つ。ゆ。よ
 あり。あ。お。さ。る。ひ。つ。う。ま。る。る。丸。具。ご。も。七。借。よ。器。さ。く。皆。珠。の。装。ま。入
 く。錦の袋に。さ。あ。その。表。舟。新。島。に。落。丸。船。乃。中。の。上。堂。に。落。せ

その。男。の。冠。を。若。孫。衣。の。襟。に。落。る。を。若。七。丸。紐。と。借。び。垂。れ。指。統
 の。袴。乃。白。比。と。若。こ。め。腰。よ。八。珠。ご。あ。の。柄。と。若。さ。う。た。る。ち。方。一。振。を。帯
 ち。よ。い。ま。さ。若。女。の。ま。つ。丸。掛。よ。八。白。櫃。乃。若。の。履。を。踏。ゆ。ら。う。て。何。る。丸。に
 ち。さ。さ。せ。く。船。よ。あ。う。つ。り。舟。形。の。修。治。も。さ。さ。む。い。う。て。何。る。丸
 が。丸。の上。堂。に。さ。ら。う。その。目。も。底。の。附。を。あ。り。と。そ。若。船。舟。お。ひ。え。う。ん
 と。さ。る。よ。舟。の。糸。あり。吹。り。う。く。船。の。よ。い。丸。は。合。よ。ら。び。捨。子。も。構。え。も。
 是。と。あ。げ。ま。い。う。つ。う。ま。る。る。も。は。舟。の。取。よ。さ。か。ら。ひ。く。丸。船。速。く
 来る。ち。方。地。と。中。せ。ば。何。る。丸。眉。根。と。う。た。て。是。は。い。う。ま。せん。ち。か。う。及。び。ん。と
 見。あ。れ。ば。乃。鏡。若。若。つ。か。る。あ。い。と。若。然。る。あ。り。何。く。ち。さ。さ。の。あ。り。
 此。今。何。れ。舟。よ。ち。う。け。く。山。は。風。と。若。さ。う。に。む。ら。せ。ま。さ。む。と。て。よ。よ



をとりて改よりうらわづ。若女かくとゆりては後よせは後殺すまらそ
 今月の用にかる後ともひきのひとるべしとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 せよ。いふは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 出れとせぬ。いふは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 若女死すにまらむは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 せよ。いふは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 うりなるとせぬ。いふは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 もとる死のこのまらせは法の若女年も後くまの若女もらそとせぬ
 て揚げらる。いふは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 まらそこのまら。いふは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ

思ふみそ死つるまらうらうらとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 あり。さるまら死つては後よせは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 物まじやとのまら。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 とも。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 とも。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 とも。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 とも。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 とも。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 とも。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ
 とも。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそとせぬ。いふはは後殺すまらそ

